

残雪の立山

今年は5月連休の4日～6日に、残雪の立山へ行ってきました。数年前から春の立山へ行きたい願望していたので、弾んで出発しました。早朝に松江駅を出発、交通機関を乗り継いで夕方17時前に室堂へ到着しました。一面に白の別世界でした。予約していた「みくりが池温泉」に到着し、自分のベッドを確認して身支度を整えます。さっそく雪の感触を確かめに歩き始めると、たくさんのカメラマンが大日岳に向かって構えています。天気は良好、夕日の時間にはまだ間があるので、さらに歩くと雪の丘に人だかり、そしてグエーグエーとの鳴声があります。近づくると岩にとまった雷鳥の撮影会が始まっていました。大日岳をバックにバッチリの写真が撮れました。気がつくと夕焼けが始まっており、あわてて引き返し、カメラマンたちに混じって夕日の大日岳をバッチリ撮影です。（写真はホームページに掲載しました）



5日は快晴に恵まれ、立山の縦走を満喫しました。みくりが池温泉を7時前に出発し、一ノ越から登るとともに室堂平が雄大に広がり、たくさんスキーマーたちが豆粒のようです。9時過ぎに雄山に立つと、雄大な風景が広がります。大汝山の遥か先には剣岳がどっしりと構え、東には後立山連峰が白馬岳から針ノ木岳まで一望できます。稜線ではいくつかのパーティに出会いましたが、西風が強く、このルートは風除けの場所がないので皆休憩に困っていました。富士ノ折立から一気に下り、真砂岳を越えて別山への急登にかかる地点で、やっと岩陰を見つけ昼食です。別山に登ると、剣岳の姿が目の前に迫り迫力満点！若かりし頃夏に登った八峰もこの季節は雪で白いです。（そう言えば小屋で同室だった東京の登山者は金具をジャラつかせて帰り、6峰のコルでビバークし疲れ切った、と語っていました。）

真っ白い雪面の気持ち良い別山尾根を、ルンルン気分を下ると剣午前小屋が下に見えてきました。そして剣沢にはたくさんのスキーマーで色とりどり。別山乗越は登山者も混じり、たまり場になっていました。ここだけ風もなく、皆に混じって座り込んでコーヒを沸かしゆっくりスキー



見物です。

下りルートは雷鳥沢もスキーヤーと登山者で賑わっています。登山者はここでアイゼンをはずし、尻セードで降りていました。私はグリセードですが、雪が柔らかく靴が潜り長続きしません。沢に入ると風がなくなり急に暑くなったので、ジャケットをぬいで汗を拭くようになります。日差しが強く、サングラスをとるとまぶし過ぎて見えません。雷鳥平に下り最後の登りに力を振り絞り、15時にみくりが池に戻りました。温泉で汗を流し、疲れを取ります。

最終日も早朝に起きてまず温泉にゆっくり入ります。日の出前に雪面を散策し、雷鳥2羽とまた出会いました。朝食後、身支度を整えてみくりが池温泉を出発。室堂ターミナルに荷物を置いて、高さ19mの「雪の大谷」を散歩しました。

ところで、みくりが池温泉では毎日朝晩に入浴、これが帰路で困った現象となりました。帰りの電車の中で隣に座った乗客が必ず顔をゆがめるのです。特に新幹線で隣の若い女性に、そっぽを向かれたのはガッカリです。温泉で小奇麗にしているはずなのに、おかしい？その答えは、松江駅へ迎えに来た妻の車の中ではじめて解けました。妻曰く「あなた、何か変な臭いがする。」そう言えば、みくりが池温泉の成分は硫黄泉、いわゆる卵の腐った臭い。繰り返し入浴した本人は、マヒして気がつかないのです。これから温泉の帰りは、臭いを消しておくよう気をつけようと痛感しました。

2016年6月号